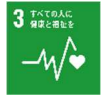





研究者名※	古賀 繭子 KOGA Mayuko	学位※	博士(学術)
所属※	建築デザイン学部 建築デザイン学科	職名※	助教
連絡先	mkoga@fc.jwu.ac.jp		
URL			
researchmap※	https://researchmap.jp/read0198931		
研究分野※	工学・建築学(都市計画・建築計画) / 複合領域・生活科学(住生活学)		
研究キーワード※	住生活、住環境デザイン、地域居住・まちづくり、高齢者居住、福祉住環境		
共同研究・競争的資金等の研究課題	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生活習慣からみた住まいにおける生活用品の実態に関する研究(公益財団法人生協総合研究所第14回(2016年度)生協総研賞「助成事業」、2016-2017年) ・住み続けられ、住み継がれる分譲戸建て住宅地に関する調査研究(株式会社アキュラホームとの共同研究、2019-2021年) ・ライフステージによる住みこなし実態に関する研究(株式会社アキュラホームとの共同研究、2021-2022年) 		
社会貢献・産学官連携活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・日本建築学会 住まいづくり支援建築会議 支援事業部会 委員(2007-2008年) ・国立市における地域資源調査(国立市からの受託研究、2018年) ・日本総合生活寄附授業(2020年～) ・アキュラホーム共同研究(2019年～) 		
受賞歴	<ul style="list-style-type: none"> ・橋本総業株式会社・給排水設備研究会 第10回論文賞 最優秀賞(2001年) ・日本女子大学学業成績優秀賞・研究奨励賞(2015年) ・森村豊明会奨励賞(2016年) 		

研究領域	住生活・建築計画	 
研究テーマ※	ライフスタイル変化に適合する住宅・地域コミュニティの研究	
概要※ (概ね1000字以内) (写真・グラフ等自由)	<p>【研究の背景・目的・内容】 少子高齢化や共働き家族、在宅ワークの増加などの社会情勢の変化に伴い、生活者のライフスタイル、身体機能の変化に適応した住環境や支援体制が求められている。そこで戸建住宅を対象として、子どもの発達段階と社会情勢の変化に応じた各居室の利用変化を明らかにすることを目的に、リビングや個室を中心とした住まい方実態を把握した。また、住宅外の居住環境整備を目的に、高度経済成長期に大量建設された住宅団地内の商店街を対象に、開発当初からの業種変遷を把握し、今後の施設計画のあり方を考察するための知見を得た。</p> <p>【応用例、研究の展望】 ・在宅ワークの普及と共に、屋根付きテラスや住戸内土間空間の活用が確認できた。また、今後の社会情勢変化に合わせ設備機器導入ニーズがあることから、半屋外空間のライフステージ別の活用状況を把握すると共に、機器導入のためのバッファ空間が確保できる空間のあり方を探る。 ・高度経済成長期に建設された住宅団地内商店街は生鮮等の小売店が減少する一方で、高齢者及び障害者関連福祉施設が増加している。小売店減少による日常生活への影響や、増加する福祉関連施設に必要な環境を明らかにすることで、居住者および地域特性に応じた施設計画の提案につなげる。</p> <p>【研究方法の特色】 地域課題を踏まえ、当事者へのインタビュー調査、アンケート調査、参与調査、観察調査により明らかにする。</p>	
本研究関連特許・論文等	<ul style="list-style-type: none"> ・古賀繭子、定行まり子, 大都市中心部に位置する公営住宅における高齢者の買物行動の変化に関する研究-都営戸山ハイツを対象に, 日本建築学会計画系論文集 81(721), pp551-558, 2015年 	
共同研究・外部機関との連携への期待		

